



さわやか トカラ情報

〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL099-227-9771

発行
十島村教育委員会

【しあわせは、微笑みとともに!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

悪石島と小宝島を中心に襲った群発地震は、これまでに経験したこともない2,300回を超える回数を記録しています。現在もまだ、継続しているので安心はできないところです。しかし、毎年恒例の悪石島で「仮面神・ボゼ」が旧暦7月16日(今年は9月7日)に登場しました。一時は多くの避難者がいらっやって、開催が危ぶまれましたが、地元の理解と、役場の企画運営で、全国から大勢の方々がボゼツアーに参加していただきました。地震に負けない地元の自力と、復興を後押ししたいという方々の共助が合わさった結果ではなかったでしょうか。さあ、悪石島と小宝島だけではなく、十島村全体で元気を出して、前に進んでいきましょう!

“しあわせとは何か”

「しあわせ」は、「仕合わせ」とも「幸せ」とも書かれます。「仕合わせ」という言葉が使われるようになったのは室町時代で、良きにつけ悪きにつけ「巡り合わせ」を語源とするといわれています。それが江戸時代に至って、幸運な事態を「仕合わせ」と言い始めたようです。一方の「幸せ」という表記は、「幸」という漢字から変遷して用いられるようになったとも聞きます。

“しあわせは心の持ちようで決まる”

「しあわせ」について、様々な文献を調べてみますと、バートランド・ラッセルは『幸福論』の「家族」の章において、過去から私たちに伝わってきたあらゆる制度のうちで、今日、家族ほど混乱し脱線しているものはないと記しています。「両親の子どもに対する愛情と、子どもの両親に対する愛情は、幸福の最大の源の一つとなりうるのに、実のところ、現代では、親子の関係は十のうち九までは、両者にとって不幸の源になっており、百のうち九十九の場合、少なくとも一方にとって不幸の源になっている」と記されています。私は日本人として、家族の絆が重要な要因であると信じたいところです。

また、カール・ヒルティの『幸福論』では、「ひとが意識に目覚めた最初の時から意識が消えるまで、最も熱心に求めてやまないものは、何といてもやはり幸福の感情である。」と述べられています。それほど「しあわせ」「幸福」ということは我々人間にとって大切な要素であるのに、世界は戦争に明け暮れ、家族が離散したり、その日の食にさえありつけなかったりする人が何と多いことでしょうか。

作家の加賀乙彦氏は、『不幸な国の幸福論』の中で、幸福を定義してはいけなくと書かれています。確かにそういうものなのかもしれません。幸福感は人によって千差万別です。

ノートルダム修道院のシスター、ジャンヌ・ボッセさんは著書の中で「悲しいことやつらいことがあっても、そのあとにしあわせはやってくるのです。泣いて過ごす日があっても、それがずっと続くわけではないのです。しあわせは、涙のあとにきつと届くのですから」「いつも微笑んでいましょう。当たり前のことにも感謝しましょう。小さなことにも大きな喜びを見付けましょう。」と述べています。「笑う門には福来る」という日本のことわざにも通じるものがあり、大変共感を覚えます。

いろんな出来事は、苦しみ・悩みを生じることがあるかもしれませんが、他人と比べても仕方がない、上ばかり見てもキリがないものです。「何が幸せか?何をもって幸せとするのか?」その定義は大変難しいと思いますが「しあわせ」は、その人その人の心の持ちようで決まる、と私は信じています。

十島村で学ぶ

【素晴らしい縁に感謝して】

平島学園 9年 服部蓮花

中学一年生の二学期、中途半端な時期に平島にやってきた。前の地元の学校も少人数だが、それとは比較にならないくらい少人数学校に驚いた。何よりも同級生がいないというのは不思議で面白かった。強い個性の集まりの集団、これが私が一番最初に思った感想だった。少人数だからこそ、一人一人が進んで取り組まなければならない。最初は難しかったが、今では責任をもって物事に取り組み、自信を持てるようになった。離島というのは不便なことばかりだが、様々な経験が出来る。そしてその経験は人生のアドバンテージとなる。

私は平島に来て、驚いたことがある。それは「自分」にだ。自分でも知らない自分の一面を見つけた時は驚くとともに不思議な感覚に陥る。「自分」という存在を見つめ、深く知る。きっとそれは、地元いたら出来なかったことだ。一番近くにいる、一番理解しがたい存在「自分」。いろんな経験や色々な人との出会えて、私は自信をもって過ごすことが出来るようになった。周りは海しかない、小さな小さな島。きっと前の私はこんなところに来るなんて想像もしてなかった。一つ何か変わってたら出会ってないかもしれない。今の当たり前とは違う当たり前を過ごしていたかもしれない。不思議な縁に日々感謝するばかりだ。

そしてもう一つ、すごいなと感じることもある。それは、毎日いつでも水平線が見えること。時には朝焼けに照らされたり、夕日に照らされたり、白波が立っていたり、毎日変わる海の表情はいつ見ても面白い。時々、水平線が見えるのが当たり前で本当にすごいと感じる。他にも島ならではのことがたくさんあって本当に毎日が充実している。

だがもう半年もしないうちに私は島立ちする。季節によって変わる平島の顔をもっとじっくり堪能しておけばよかったと振り返る。この水平線も毎日見られなくなるんだと少し寂しさを感じる。私をより成長させてくれた平島から離れるのはひどく寂しい。だが、この素晴らしい縁に感謝して、半年後心改め立派な高校生となれるよう、より自分を成長させるように、残りの時間を大事に過ごしていきたい。

令和7年7月10日 南日本新聞「若い目特集」

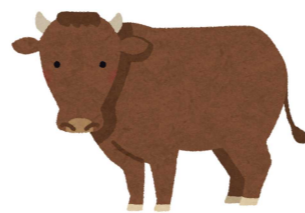
子牛が生まれた

諏訪之瀬島学園 5年 吉田 昇

「えりこが子牛を産みそうだからすぐに牛しゃに来て」。朝、牛しゃにいる母から電話がありました。

えりこは、家でかっている牛です。出産予定日が過ぎていたので、もうすぐ生まれるかもと思っていました。えりこは、いつも以上におなかが大きかったので、うまれる子牛も大きいのかなと思いました。

急いで準備をして、牛しゃに行きました。もう、えりこのおしりから足が出ていました。えりこは、とっても苦しそうで。父が、子牛の足をしっかり持って、強く引っ張ると、大きな牛が出てきました。ちょっとぐったりしてました。



男の子なので、ぼくが名前を付けることになりました。オスの牛には、漢字でつける決まりがあります。名前には、大きく成長してほしいという願いをこめたいです。

県中学校総合体育大会 5位入賞



7月19日、20日に開催された鹿児島県中学校総合体育大会 陸上競技大会において宝島学園 9年 田中光結さんが女子共通砲丸投げにおいて10M45の記録で5位入賞しました。

鹿児島県学校環境緑化活動コンクール

優秀賞 口之島学園

優良賞 悪石島学園

※ 口之島学園は全日本学校関係緑化コンクールに県から推薦されます。



【諏訪之瀬島学園からのメッセージ】

諏訪之瀬島学園 教諭 福原大智

夏休みが終わり、子どもたちの明るい声が学校に戻ってきました。久しぶりに友達や先生と顔を合わせ、楽しそうに話している姿を見ていると、「やっぱり学校は子どもたちの笑顔で輝く場所だなあ」と感じます。

それぞれの夏休みに、家族と過ごした思い出や、新しいことへの挑戦があったことと思います。少し日焼けした顔や、元気いっぱいの声から、たくましくなった成長を感じています。

2学期は「学びの秋」「実りの秋」だと思います。運動会や文化祭、持久走大会など、大きな行事が続きます。仲間と力を合わせてがんばる経験は、子どもたちの心をさらに大きくしてくれるはず。成功も失敗も、みんなで分かち合いながら、一歩ずつ成長していったらいいと思っています。

夏から秋へと季節が変わる今は、体調を崩しやすい時期でもあります。どうぞご家庭でも、生活リズムを大切にしながら、子どもたちの健康を見守っていただければと思います。

地域や保護者の皆様には、いつも温かい応援とご協力をいただき、本当にありがとうございます。子どもたちが安心して過ごせるのは、皆様のお力添えがあってこそだと感じています。これからも学校・家庭・地域が手を取り合い、子どもたちの笑顔を支えていけたら嬉しいです。

実り豊かな秋の季節。2学期も、子どもたち一人ひとりが、自分らしく輝ける日々になりますように——そんな思いを込めて、共に歩いていきたいです。

ニュースポーツ体験予定

10月11日(土) 悪石島 種目ディスコン

10月18日(土) 小宝島 種目ディスコン モルック

10月25日(土) 口之島 種目バグー

11月8日(土) 諏訪之瀬島 種目ディスコン

会場は、各学園体育館です。講師は鹿児島県レクリエーション協会指導員です。